



香椎宮略誌

福岡市東区香椎鎮座

一、御祭神 主神 仲哀天皇 神功皇后 配祀 応神天皇 住吉大神

一、御由緒 香椎宮は仲哀天皇九年（二〇〇）神功皇后躬ら祠を建て仲哀天皇の神靈

を祀給うたのが起源であります

次で、神功皇后の宮は元正天皇の養老七年（七二三）に皇后御自身の御神託により朝廷が九州に詔して社殿の造営を創め聖武天皇の神龜元年（七二四）に竣工したもので此の両宮を併せて香椎廟と称した

明治以来には官幣大社香椎宮と称し戦後は香椎宮と称している

一、皇室国家の尊崇

香椎廟は天子の宗廟にして廟号を以て他の神社と異なる特別の御崇敬を捧げられ 奈良平安このかた廟司以下六百十余人の奉仕団また千二百町歩の神領を寄せられ国家の大事に際しては必ず奉幣の勅使を差遣せられ現在も勅祭社であり 十年毎に勅祭が齋行される 過去不幸にして社殿炎上の折はその都度最も重い 廢朝五日を仰出されている 他社の場合は重くて三日の廢朝である

一、御神徳

仲哀天皇（足仲彦天皇・人皇十四代）八年（一九九）筑紫の檀日宮に坐しまして天下治しめし率先内治外交に御精励のさなか御志なかばにして俄に崩御遊ばされました 神功皇后（氣長足姫尊）は御遺志を継がれ 神祇の教を被け御懷妊の身を以て躬つから国内を平定せられ 更に進んで船団を率い三韓御駐輦の壮挙を果され 初めて国際国家としての日本の地位を確立せられました この御大業は正に神わざとして史上に輝き以後六百年に亘つて朝貢あり帰化あり交流盛んにして国運愈隆昌に赴きました すなわち朝貢の有様は左の如く伝えられております

百済王 久氏・弥州流・莫古をして朝貢らしむ時に新羅國の調使 久氏と共に詣る 是に於て 皇太后（神功皇后）・太子嘗田別尊（応神天皇）大に歡喜びて曰はく「先王（仲哀天皇）の所望したまひし國人今來朝けり 痛しき哉 天皇に逮はざるること」と群臣皆流涕まざるは莫し

——日本書紀——

また以て切々たる御衷情を拝し且つまた香椎廟奉齋の所以を知ることができましかくて御子応神天皇は 八幡神として遍く信仰を集められ 御孫仁徳天皇は世界最大の陵墓たる仁徳陵によつてその聖徳が偲はれます

かの雄渾な土木技術を始め建築・工芸・縫織・文教あらゆる文化の恩恵は全く当御祭神の赫々たる御神威に淵源しやがて絢爛たる日本文化の花が開かれて行きます

この國に生を享ける者の一日も忘るまじき御神徳であります こゝにこの御神徳の片鱗を景慕して左の長歌を掲げます

筑前国怡土郡深江村子負原海に臨める丘の上に二つの石あり 公私の往来に馬より下りて跪拜せずといふことなし 古老相伝へて曰く往古息長足日女命 新羅國を征討けまし、時この兩つの石を用ちて御袖の中に挿み著けて以て鎮懐と為す かれ行人此の石を敬拝すと乃ち歌を作りて曰く

かけまくは あやに畏し 帯比賣 神の命
韓國を 向け平らげて 御心を 鎮め給ふと

い取らして 齋ひ給ひし 眞珠なす 二つの石を
世の人に 示し給ひて 万代に 言ひ継ぐがねと

海の底 奥つ深江の 海上の 子負の原に
み手つから 置かし給ひて 神隨 神さび坐す

奇魂 今の現に 尊きろかも

一、御社殿並摂末社

御本殿 御本殿の創建の古いことは判明しないが現在の御本殿は元正天皇が養老七年（七二三）太宰府に詔して九州全国の課役を以て改築を始められ聖武天皇の神龜元年（七二四）竣工した壮大な香椎廟の形式其儘を伝えてゐる 建築様式は香椎造りであつて日本唯一の様式で重要文化財であります 現在の御本殿は享和元年（一八〇

一）筑前藩主黒田長順公の遵式縮小の再建であり周囲は透塀で囲われている

幣殿 幣殿は他社で拝殿と称している建造物であるが香椎宮では勅使御参拝の時御幣物を捧げられる所であるので古から幣殿と称している 現在の幣殿以下の建造物は皆明治三十一年追遠会によつて順次建造されたものである

拝殿 本宮の拝殿は幣殿の前の勅額「香椎宮」のかかつてゐる建物

中門 社殿前の単層の御門で左右に廻廊を廻らした檜造朱塗の御門である

楼門 重層の雄大な建造物で総檜白木造りで左右に筋塀がある 天正十四年（一五六八）戦火により焼失したが 明治三十六年（一九〇三）再建された

勅使館 十年毎の勅使参拝の時勅使が御宿泊になる御殿

勅使参拝標石 此の標石は恐らく奈良朝以前に建てられたと推定されている五箇の標石で勅使館前に「御休息所」中門階段下左に「御手水所」同右に「御祓所」中門上の左に「御脱剣所」同右に「衛土居所」という高さ六十糎の標石が立つてゐる これは勅使又は太宰の帥が香椎廟に参拝した時の昇殿迄の儀式の順序場所を指示した標石で香椎宮だけにある貴重な標石である

撰末社

武内神社 本殿左側玉垣外にある武内宿禰を祀る

卷尾神社

本殿右側玉垣外にあり中臣鳥賊臣大連を祀る

鶏石神社

中門下綾杉の側にあり鶏を祀る日本唯一のお宮で子供の夜泣きなどに御利益ありとの信仰がある

稲荷神社

鶏石神社と並んで祀られている五穀豊穰商売繁昌の神として参拝者多し

其他十数社の末社がある

一、古宮

仲哀天皇の皇居檀日宮の跡であり又神功皇后が自ら仲哀天皇の神霊を祀られた香椎宮創建の地でもある 以前は仲哀天皇の神廟があつたので「古宮」と言い仲哀天皇の御棺を掛けたと伝うる棺掛椎（御棺を掛けた時に異香が漂つたので香椎といふ）これがやがて地名香椎の起源となる）が六角の玉垣の中にある

一、御島

本宮の西方海上八百米に鳥居の立つている島である
此の島は神功皇后が御渡海に際し神々の神教の当否を占われた聖地と日本書紀にも伝えてある島で現在は綿津見神をお祀りしている

一、御神木『綾杉』

神功皇后が海外より御帰朝の際三種の宝を此所に埋め鎧の袖の杉枝を挿し「永遠に本朝を鎮護すべし」と誓いを立て祈りを籠め給うたものが大木となつた 又皇后が大和へ御帰還の際御自身の神霊を此の杉の葉に留め仲哀天皇の御側に永仕を祈られたので国家の鎮護として昔からこの杉の葉に守札と不老水を添えて朝廷に奉つた 又太宰の帥に新任された人は必ず本宮に参拝し神職からこの杉葉を冠に挿すことが恒例であつた 此の杉は普通の杉と異り葉は海松の如く大小の葉恰も綾の様に交互に出ているので綾杉と称している 幾度か神殿と共に焼けた事があつたがその度毎に植継ぐことなく今日猶空高く聳えている

千早振る香椎の宮の綾杉は神のみそぎに立てるなりけり

（新古今和歌集）

の歌で有名で昔から多くの詩歌に詠まれている

一、不老水

三百年の長寿を保ち五朝にお仕えした武内宿禰が堀つた井戸で香椎宮創建以来毎年正月朝廷に献納している不老長寿痼疾を除き頽齡を延す靈泉である

一、亀乃池つつじ山

綾杉東南の神苑にある池は「亀乃池」と称し 大正十一年貞明皇后御参拝の際 亀を放生された由緒ある池である この池を囲むつつじ山には千六百株のつつじがあり 花時には桜松楓等と満山調和して見事である

一、御池の菖蒲

本宮樓門下の魚型を成す約五百坪の御池に花菖蒲二千株香椎やろう会の奉納により咲きわたり参拝者思わず杖をとどめ暫観賞に酔う

一、勅使道

頼宮から本宮に至る約一キロの雄大な樟樹のトンネル道で正に日本一の勅使道である 此の道は昔は神の道で神幸式にのみ使用したものであつたが大正十一年貞明皇后の御参拝記念事業の一端として整理福岡県下の各種団体の苗木奉獻によつて今日の盛観を呈している

一、頼宮

香椎瀉を眼下に見 志賀、能古、玄海、相の島の諸島より日本海を見渡す景勝の地にあり隔年の御神輿の渡御がある

一、万葉歌碑

頼宮の境内に明治二十一年に建立された歌碑で日本に於ける万葉歌碑の白眉である

九五七 いざこども香椎の瀉に白妙の袖さえぬれて朝菜摘みてむ 帥 大 伴 卿

九五八 時つ風吹くべくなりぬ香椎瀉潮干の浦に玉藻刈りてな 大弐小野老朝臣

九九九 往き還り常に我が見し香椎瀉明日ゆ後には見むよしもなし 豊前守宇努首男人

の三首が万葉仮名で書かれて居る 著者は内大臣三条実美である